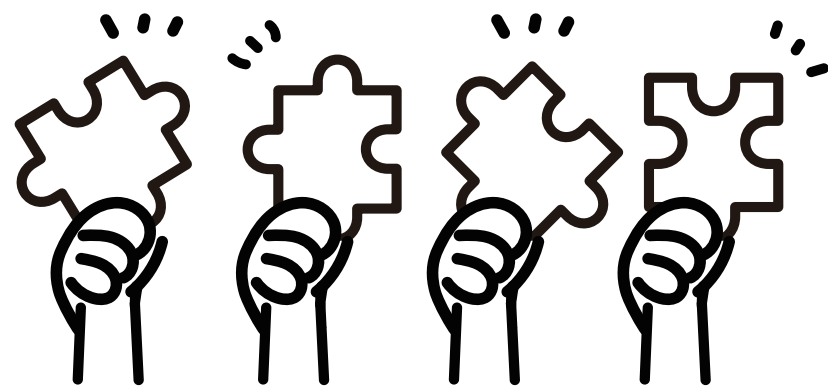




いけだ駅前未来について、みんなで考えてみた件。

いけだ まちづくり 未完成 ビジョン

ビジョン編



いけだ駅前 未来ビジョン Vol.0

あなたと一緒に、未来ビジョンを作りあげてみませんか。

著＝いけだエリアプラットフォーム

いけだ駅前で「官民連携」での 「まちなか再生」が、いま必要な理由



今後のまちづくりの 方向性は「居心地が良く 歩きたくなるまちなか」

昨今、ライフスタイルの多様化や人生100年時代の到来などの環境変化が進むなかで、一人ひとりの暮らし方やまちとの関わり方が様々に変化しています。そのため、今後のまちづくりの方向性として、まちなかに「多様性を認め合うゆるやかなつながり」や「コミュニティ」、「サードプレイス」を形成することが不可欠になり、「居心地が良く、歩きたくなるまちなか」を創出することが重要であるとされています。

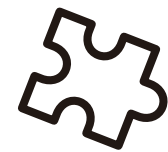
便利で快適で暮らしやすい魅力的ないけだ駅 前を、より良くしたい

阪急大阪梅田駅から池田駅までは約20分、池田駅周辺は、五月山や猪名川といった自然環境も身近で、五月山動物園やカップヌードルミュージアム大阪池田をはじめ小林一三記念館や池田城跡公園といった歴史文化施設、商店街やまちなかにも个性的なお店が点在し、とても魅力的なエリアです。駅周辺をより良い空間にしていくためには、先に示したまちづくりの方向性などを踏まえ、駅前空間やまちなかに点在する資源とその周辺の公共空間等を

有効活用し、上手く連携させながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」へとアップデートしていく必要があります。

公共空間等の利活用 「まちなか再生」で 賑わい創出

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を創出するためのひとつの手法が「まちなか再生」です。官民が一体となり、ゆとりある歩行者空間や居心地の良い滞在空間として公共空間等を有効活用することで、色んな人が集まってくるところができ、まちなかに賑わいを創出します。その賑わいが人々の交流を



促進し、イノベーションの創出や地域課題解決、民間投資等の良い循環を生み出します。

いけだ方式 「官民連携まちなか再生」

いままでの行政主導のまちづくりでは、イベントや施設整備を行っても担い手がいない、活動が継続できないという課題がありました。そこで、自立・自走のシステム構築に重点をおいたのが、今回の「官民連携まちなか再生推進事業」の特徴といえます。

地方自治体の予算には限りがあります。今までのように「整備」のプロセス

だけに市民が参加するのではなく、「運営」にも市民が参加しなければ、私たちのまちを自分達で守ることができません。まちの再生活動を持続するために、人材を集め、議論・行動し、また人材を集め議論行動し、というプロセスを何度も繰り返しながら、活動を持続させる必要があります。

池田市での「官民連携まちなか再生推進事業」にあたっては、特に次の2点を重視した「いけだ方式」で事業を推進します。



- ① 市民が中心になって活発に活動し、それを行政がそっと後支えする官民連携型での事業の実施。
- ② 社会実験とビジョンの作成を繰り返し、持続する組織の構築と地域人材を育成する「プロセス重視型事業」の実施。

この「未来ビジョン」は、活動のプロセスの中で今後何回も更新していく予定です。社会実験やイベントなど、たくさんの参加の機会を作っていきますので、ぜひご参加ください。



目次



ビジョン編

いけだ駅前で「官民連携」での「まちなかの再生」が、いま必要な理由 巻頭言 01

なんで「未完成」ビジョンなん？ 05

より良い未来を想像し、日々進化していくビジョンだから 07

一人ひとりの未来ビジョンが重なり大きな「いけだ駅前の将来像」ができあがる 08

本冊子の使い方は？ 09

対象エリアについて 11

各エリアの現状と課題 詳細説明 13

駅前を、アイデアでいっぱいにする「いけだ駅前プロジェクト」はじめました 15

いけだ駅前活性化プロジェクトとは 17

プロジェクトミーティング 18

見えてきた！いけだ駅前の魅力と課題 19

イベント＝活性化？日常の賑わいづくりにつなげるヒント コラム 20

使い方・楽しみ方を考えたら、個性的な企画が誕生しました！ 21

社会実験でまちの姿とポテンシャルを確かめてみた 23

「こんな風に使ってみたい」「使ってほしい」みんなで立てた仮説を検証 25

社会実験で実感したメンバーの声 33

図と数字で見る社会実験 詳細説明 35

みんなで考えた将来像はコレだ！ 37

導き出した将来像 39

将来、いけだ駅前はこんなふうになったらいいな 41

将来像を実現するためのまちづくりの進め方 43

4つの空間の使いこなしイメージ 45

それって、どうやって実現させるの？ 55

いけだ駅前がもっと魅力的になるロードマップ 57

まちを測る指標・定量目標 59

公共空間は「みんなのもの」であり「わたしのもの」でもある コラム 60

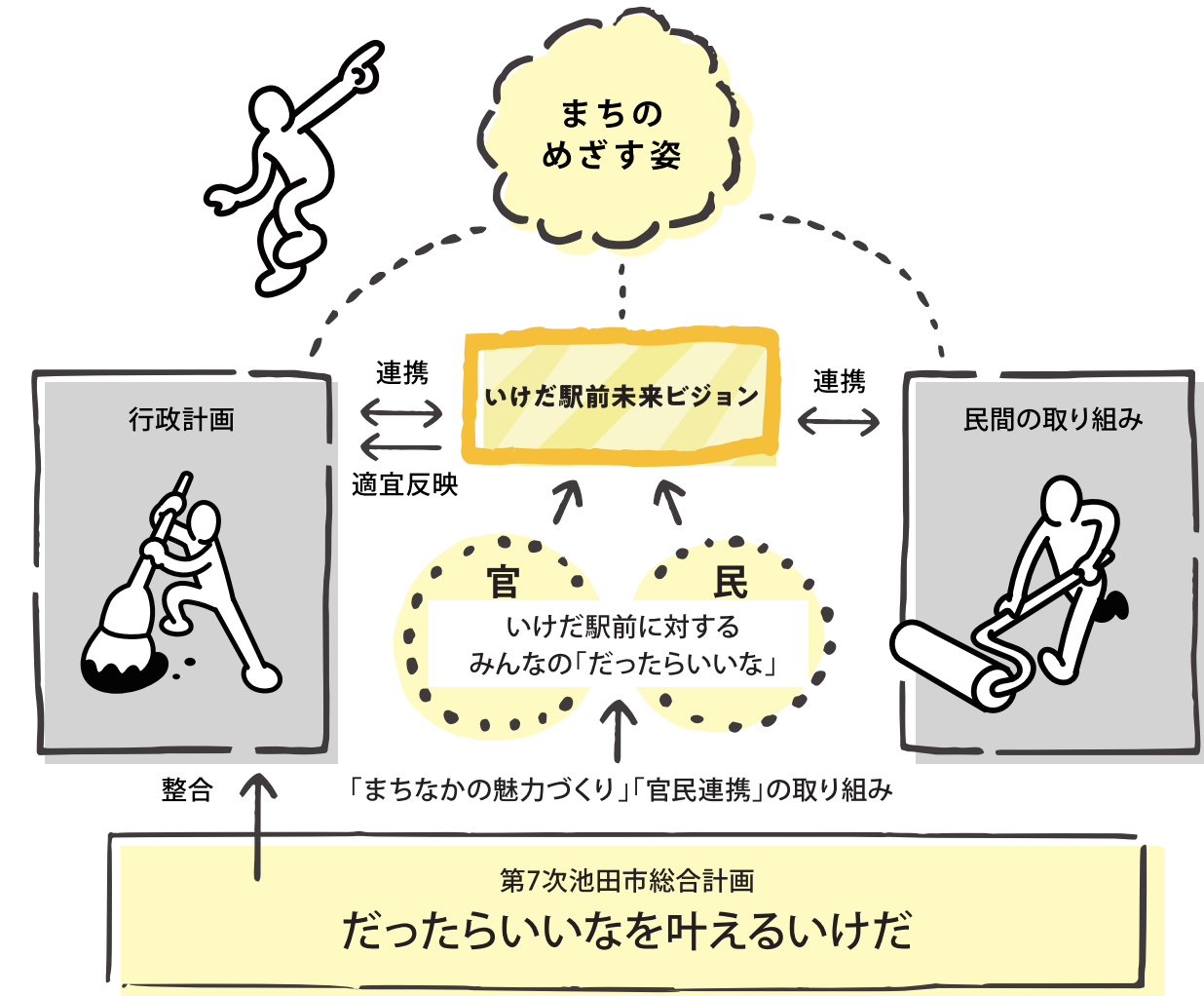
推進体制 61

行政内の横連携 63

活性化を進めていくための基本的な考え方 コラム 65

「まちなかユーザー」にあなたもなってみませんか？ 67

いけだ駅前未来ビジョンの位置付け



いけだ まちづくり
「未完成」ビジョン

why

なんで

「未完成」ビジョンなん？



unfinished?

より良い未来を想像し、 日々進化していくビジョンだから

わたしたちはこのビジョンを、「みんなで使い続けながら日々進化していくビジョン」にしたいと思っています。

「わたしたち」とは、市民、地元の事業者や商店主、学生、行政職員、インフラを担う大規模事業者、公共施設の指定管理者、まち会社やNPOなどの有志で構成する「いけだエリアプラットフォーム」のことです。このビジョン実現のために、一体となって取り組む人たちの集まりです。

わたしたちは、1年半にわたり、先進事例の見学をしたり調査をしたりしながらディスカッションを重ね、成果をこの冊子にまとめました。多くの人たちが関わったものですが、それでも参加した人数で言えば70人ほど、池田市民の0.1%にも満たない数です。だから、「未完成」というタイトルに思いを込めて、より多くの方に関わって頂き、使い続けながら進化させていきたいと考えています。

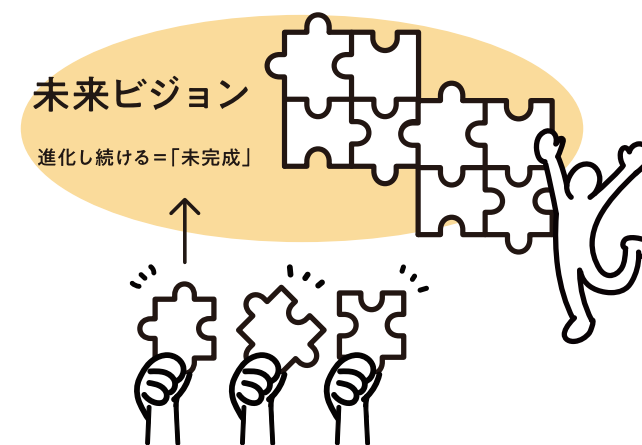
一人ひとりの未来ビジョンが重なり 大きな「いけだ駅前の将来像」ができあがる

この「未来ビジョン」には、

- 1 現時点でみんなが目指す「いけだ駅前の将来像」を示す
- 2 冊子完成後も、新たな市民がビジョンの作成に参加できるプロセスを残す
- 3 まちづくりの進歩にあわせ、常に更新され進化するビジョンを作る

という3つの役割があります。市民が中心になり、それを行政がバックアップしているからこそできる池田のチャレンジ。

まちづくりには目標があっても終わりはなく、市民みんなの想いを紡ぎながら活動するプロセスそのものがまちづくりなのだと、そんな思いを込めて、この冊子をいけだのまちづくりのはじめの一步、「未完成ビジョン」と名付けました。



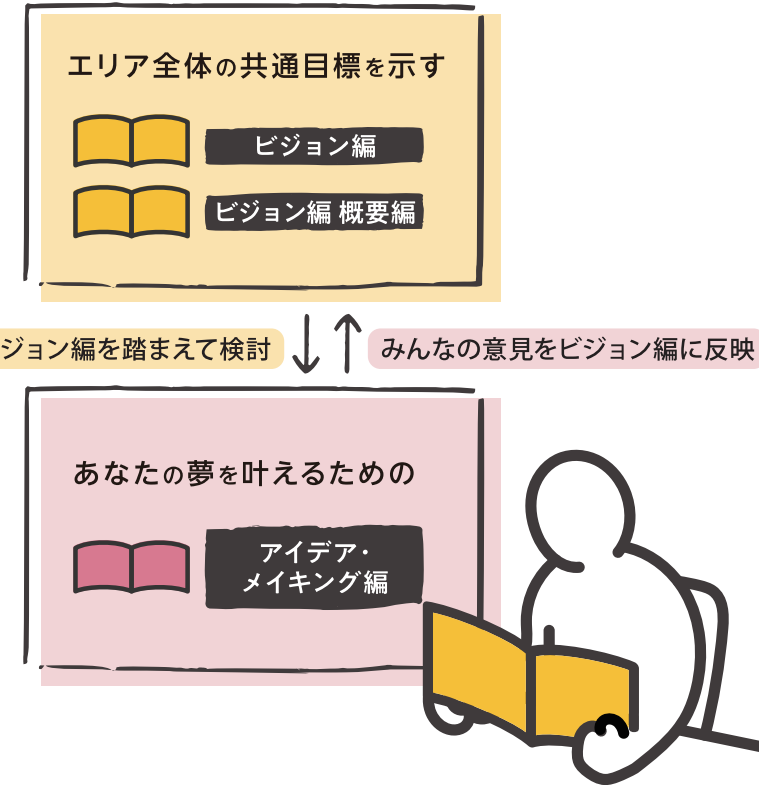
本冊子の使い方は？

本冊子は、エリア全体の共通の目標を示す「ビジョン編」と、あなたの夢を叶えるための「アイデア・メイキング編」とに分かれています。

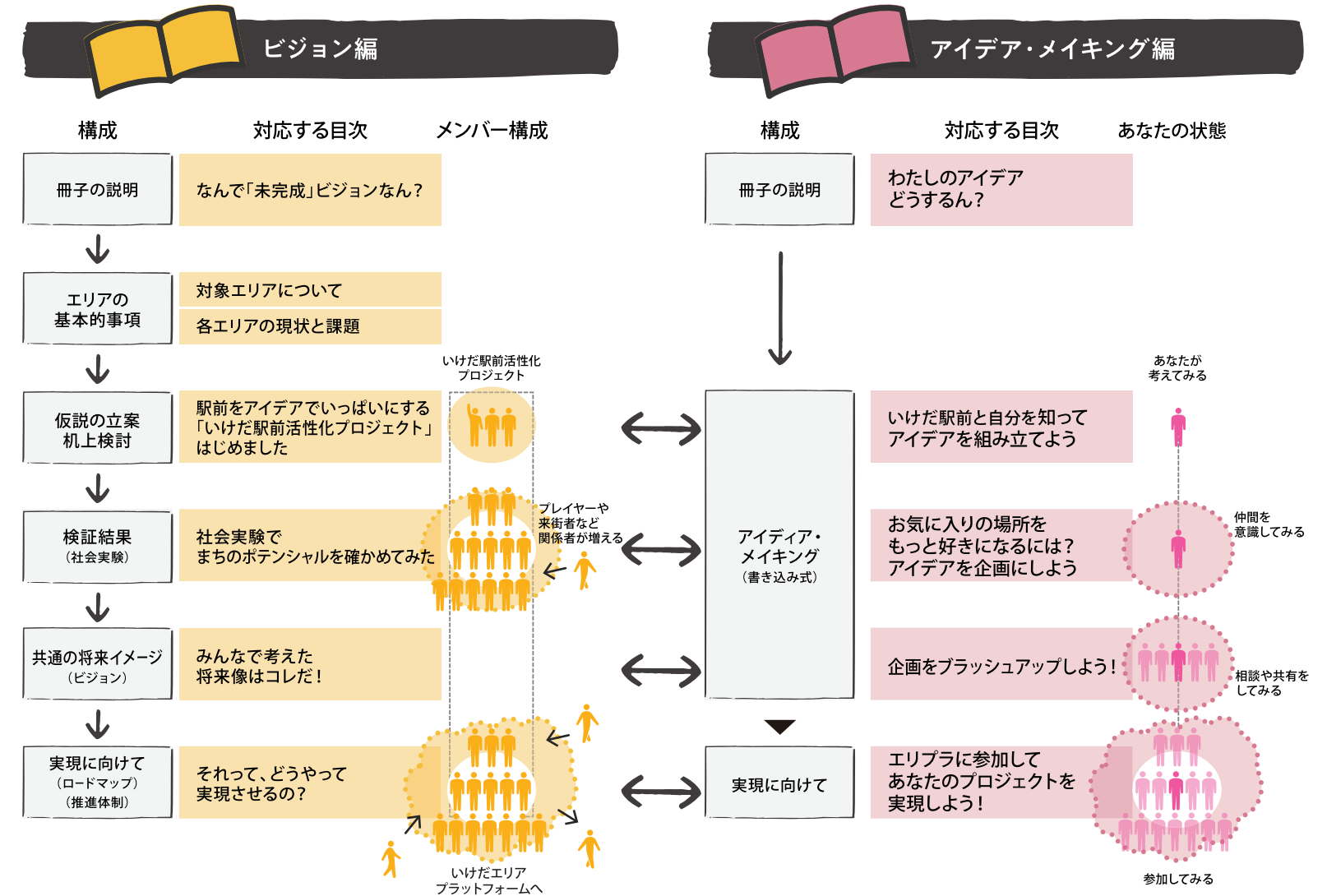
誰でも気軽にエリプラへ参加してもらいたい、という思いから、ビジョン編はエリプラのこれまでの取組みを追体験してもらえらる報告書的な構成に、アイデア・メイキング編は一人ひとりの想いや夢を書き込めるワークブックにしました。

いまこの冊子を手にとっているあなたの想いや夢をぜひ共有してください。

一人ひとりの「アイデア」を共通の「ビジョン」に反映させていきたいと考えています。



さあ、いっしょにまちづくりを始めましょう！



対象エリアについて

歩いて楽しめる半径1km圏内を「いけだ駅前」と考えてみる

市の玄関口となる阪急池田駅と、それに交差する形で市を南北に貫くメインストリート・さくら通り。五月山動物園から阪急池田駅、そしてカップヌードルミュージアム大阪池田あたりまでを、広い範囲で「駅前」と捉えてみましょう。

この「駅前」を、もっと居心地が良く、歩きたくなる「まちなか」にするためのプロジェクトです。



五月山への急勾配を考慮した、回遊したくなる工夫を

わたしたち自慢の雄大な五月山の自然は、駅から歩いて行ける距離にあります。しかし、いけだ駅前の回遊を阻むのは本町通り以北の急勾配。駅と各ポイントとの繋ぎ方にも留意して考えていきます。



各エリアの現状と課題



駅前の道路空間や広場

せせらぎモール

歩行者と自転車が入り交じる空間になっています。ベンチ等は少なく、通行量と比べて、待ち合わせや飲食等で滞在している人はほとんど見かけられません。周辺には、ブランマルシェやサンシティといった商業施設が面していますが、一体感を持つムード作りには至っていません。修景施設として整備された経緯がありますが、今後はニーズにあわせた形へのアップデートが求められます。

てるてる広場

ステージや備品、電源が整った駅前のオープンスペース。待ち合わせや休憩などの用途のほか、イベントやセレ

モニーの場としても利用されていますが、周囲の商業施設とは国道や鉄道で分断されていて、一体感に欠ける面があります。

池田市道阪急南線

ダイエー前から観光案内所の車道で人の空間が途切れています。道路施設の老朽化も進み、安全な通行や景観面で課題があります。

都市公園

五月山動物園

入場無料の市営動物園として親しまれ、ウォンバット人気により多くの観光客が訪れています。快適に滞在し周辺を

回遊するきっかけづくりが必要です。

都市緑化植物園(緑のセンター)

入場無料の植物園と芝生広場があり、自動販売機等があることからハイカーを含め来園者数が多い。五月山動物園との往来や横移動は少なく、五月山一帯のブランド化が必要です。

池田城跡公園

本格的な茶室や展望休憩舎を有する公園。6月の白百合や、日本庭園風の園内は人気ですが、目的のないぶらり歩きコースにはなりにくい状況にあります。

池田駅前公園

駅から徒歩3分の好立地。駅からの視認性が低く、来街者には公園の



認知度が低くなりがちです。広いグラウンド(平場)を活かした、使い方を検討していく必要があります。

ストリート・商業集積

さくら通り

大阪府の「アドプト・ロード」に参加。個性的で魅力的な個店が点在しており、古民家等をリノベーションした新しいカフェや雑貨屋、本屋なども見受けられます。

ポケットパーク

さくら通りの一部を市が整備したもので、立地的には、駅から五月山までの中間地点に位置し、「さくら通り」と「本町通り」との接点にあります。山側は急斜面になるため、観光案内や休憩スペースなど、行動をサポートする機能などが必要です。また、今後の活用が検討されているコ

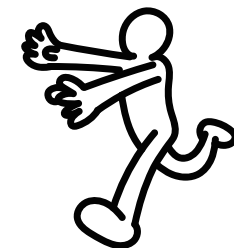
ミュニティセンター跡地と一体的な活用が求められます。

サカエマチ商店街

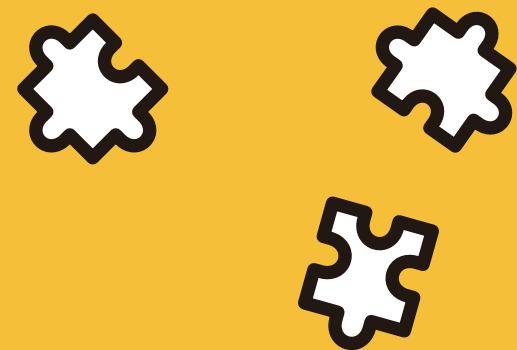
昔ながらの商店と新規参入の店舗が融合し、市民の生活を支えています。学生団体「関関COLORS」が地域活性化のサポート役として活動しています。

駅前商業施設

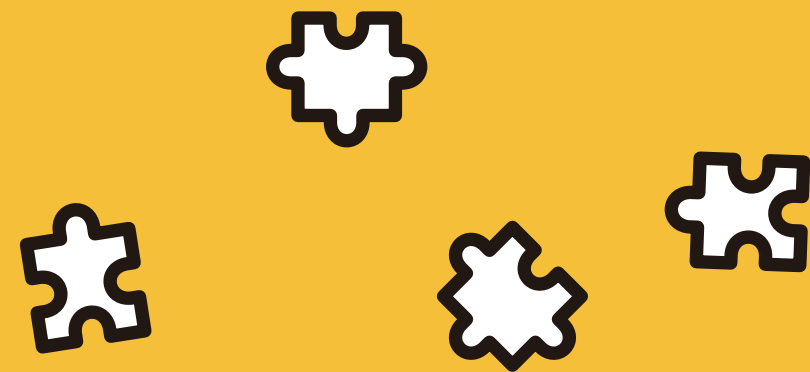
ブランマルシェ、サンシティ、ダイエーや、駅から市役所までの動線にあるステーションN、伏尾台行きバス停のあった池田阪急ビル(建て替え中)といった商業施設が集積。方向性や足並みを揃えた事業展開が求められます。



いけだ まちづくり
「未完成」ビジョン



駅前をアイデアでいっ
「いけだ駅前活性化プ
start



ぱいにする
プロジェクト」はじめました
a project



いけだ駅前活性化プロジェクトとは

暮らすひとを想いながら 未来を描き、まちを共創しよう。

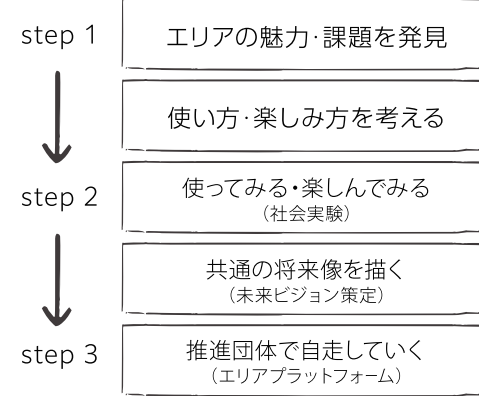
みなさんの活動や歴史ある資源を繋ぎ、いけだに暮らす人・働く人が新しいチャレンジをしながら、歩いて楽しい「いけだ駅前」をつくっていくため、2021年10月、「いけだ駅前活性化プロジェクト」が立ち上がりました。

プロジェクトには、市民活動を通じてまちと関わりを持っていた市民や、駅前商業施設、商店街、店舗の方々、公園等を管理している指定管理者の方々、また、公募を見て参加された学生・市民・事業者など、70人を超えるメンバーが集まりました。

プロジェクトロゴとメンバーのみなさん

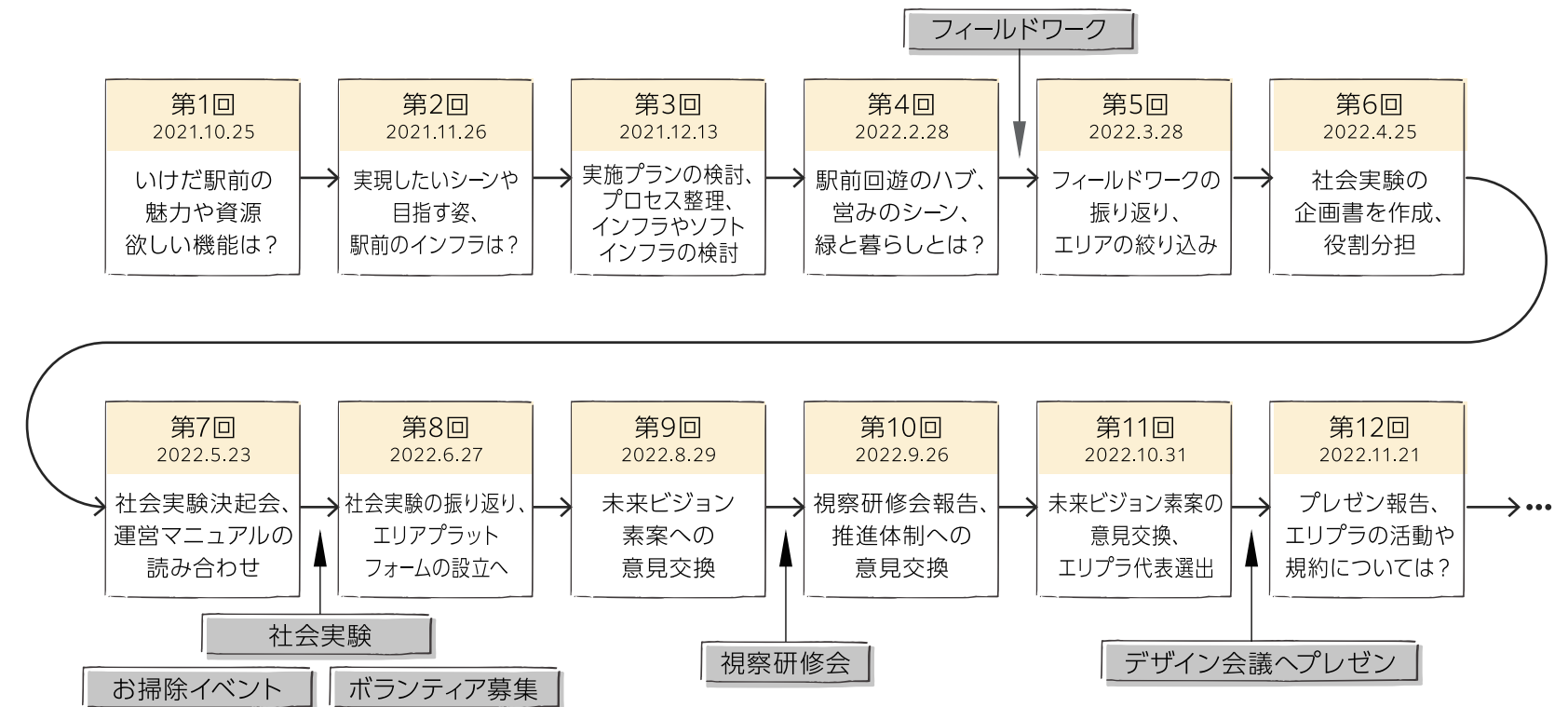


プロジェクトの進め方



プロジェクトミーティング

わたしたちは、いけだ駅前の公共空間のあり方を再検討し、緑あふれる、歩いて楽しめるまちづくりに向けて、多様な主体が連携して、駅前を使って・つなげて・活動するためのコンセプトやルールを話し合うミーティングを重ねてきました。



見えてきた！いけだ駅前の魅力と課題

プロジェクトミーティングで書き出した魅力と課題。美しい里山の自然や歴史文化の中にありながら、何か足りない、使いこなせていない現状が見えてきました。

駅前の地域資源

利便性

【施設】駅前に図書館がある
【買い物、飲食】駅周辺に商業施設が集まっている
【移動、交通】交通の便がいい

観光・賑わい

【魅力的な個店、名店】
小さくてもいい居酒屋さん
大通り以外にもお店がある

景観・憩い

【都市の緑、水】緑の見える空間
(高層ビルがない)
【大自然】山が近い
【景色】五月山から見える夜景がキレイ
【閑静】ちょっとゆったりした人通り
【街並み】レトロなまちなみ(本町通り)

遊び場

【公園、広場】公園が多い
【運動施設等】ハイキングコース

その他

【企業、歴史】過去が保存されている
【地域】治安がいい

駅前に欲しい機能

風景の機能

【眺望】駅前からランドマーク
(五月山)が見えにくい
【歩道、道路】道路が狭い

暮らしの機能

【買い物】若者向けの店が少ない
【営業時間】営業時間が短い
【自転車】自転車の通路整備があまりできていない
電動自転車が必要

おもてなしの機能

【観光案内】回遊バスが欲しい
【いけだといえば】
魅力をつなぐストーリーは必要
アップデートが少ない
目新しさがない

活動の機能

【滞在空間】涼を取れるところが少ない
【アクティビティ拠点】
子連れで気軽に食べられるところが
ファーストフード系しかない

イベント＝活性化？ 日常の賑わいづくりにつなげるヒント

コラム

Column

目指す「賑わい」って どんなこと

わたしたちの日常には、通勤・通学の道、夕ご飯の買い物途中、将来のことを考えるカフェや本屋、今日のストレスを発散する赤提灯、家族と出掛ける休日のひとときなど、実に多様なシーンが存在します。

また、自慢の野菜を届けたい、周りに褒められる似顔絵で出店を出してみたい、セカンドライフは夫婦で喫茶店をしてみたいなど、新たな日常へのチャレンジも思い浮かべてみたりして。

誰もがどんなタイミングでも、まちなかに居場所を見つけられて、豊かに

過ごすことができれば……。その結果がわたしたちの目指す「賑わい」であると考えています。

使いやすい「器」に していく

通勤前のいつもの道に、日替わりでコーヒースタンドが出ていたら、ちょっと立ち寄ってみたいと思いませんか？桜の季節には、昼の休憩時間にお弁当を持って、あちこちのベンチでお花見ができたらどんなにいい気分でしょうか。

これまで使われていなかった公共空間や商業施設の軒先に、場所貸し屋台が出せたり、ひとやすみできたり

する場所があれば、きっといろんなチャレンジや交流が生まれるはず。

まちなかの色々な場所を、官民で意見交換しながら、使い勝手の良い空間にリノベーションしていきます。

歩いて楽しむまちづくり

そうしてまちなかにたくさんの魅力的な「点」が出来てくると、「あそこも」「ここも」と行ってみたい場所が増えていきます。「点」と「点」がつながって「線」となり、「面」へと広がってエリアの魅力が高まる将来を見据えて、エリア全体が歩いて楽しめるまちなかになるよう工夫していきます。

使い方・楽しみ方を考えたら、 個性的な企画が誕生しました！

駅を降りると、目の前には商業施設が集積していますが、待ち合わせをしたり、腰を下ろしたり、放課後遊びに来たりできるオープンスペースが少ないことに気がつきました。駅前という最高の立地を活かして、小さな子どもを連れて「公園デビュー」ならぬ「駅前デビュー」ができるような、安全で楽しい空間を作りたいと、たくさんの企画が出てきました。

また、いけだ駅前の魅力は市街地に居ながら大きな自然を身近に感じられるところ。駅前、中腹、五月山、それぞれに立地する3つの公園を、いまある雰囲気や設備を活かしながら、プラスアルファの使い方・楽しみ方を企画しました。

さらに、それらを繋いで、一日中駅前を遊び尽くせるよう、広報の方法も考えました。



いけだ まちづくり
「**未完成**」 ビジョン

confirm

社会実験で

まちの姿とポテンシャル

the



ルを確かめてみた

potential

「こんな風に使ってみたい」 「使ってほしい」 みんなで立てた仮説を検証

わたしたちは、アイデアを検証するため、2022年6月に社会実験「おさんぽマルシェ in IKEDA」を開催。約3,000人の方に楽しんでいただきました。例えば、今は歩行者と自転車が縦横無尽に行き交うだけのせせらぎモールが、親水空間で子どもたちが遊び、屋台でマーケットにチャレンジする人が居て、それを見ながらつくろぐ人が居て。

「まさかこんなことできないよな」と諦めていた「心の壁」を取り払うことで、色んな使い方=まちのポテンシャルが具現化されました。



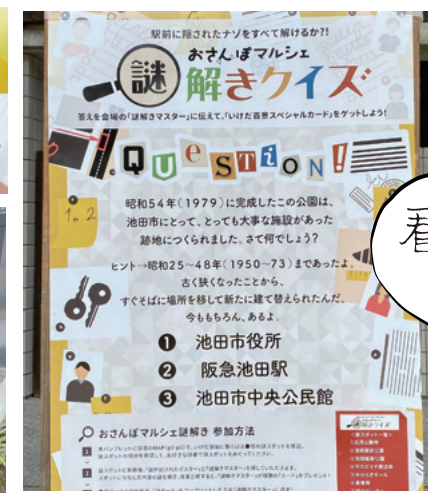
おさんぽマルシェ in IKEDA 2022 当日パンフレット

いけだ駅前を活性化させるための官民連携社会実験として初めてのイベント開催となりましたが、コロナ対策や熱中症対策、自転車の駐輪場所移動や乗り入れの制限など、来場者の方々にもたくさんのご協力をいただきました。プロジェクトメンバーみなさんの熱意が形になった「おさんぽマルシェ」。出展者の方々を始め、関わっていただいた多くの方々、そしてご来場者のみなさま、本当にありがとうございました！

行ったところに
シールを見つけてみる



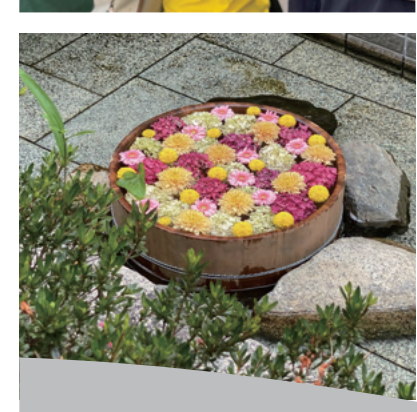
情報発信、クイズ、救急対応など



看板もマルシェスタンドも
みんなで手作り!



いつもはイロイロない場所に
芝生広場が誕生!



駅前空間を、滞在したくなる空間へリニュー
アル。芝生広場や親水空間、花手水、マル
シェ、フォーラム開催、野菜販売、青空ピアノな
ど、様々な使われ方の可能性を見出しました。



せせらぎモール

てるてる広場



ポケットパーク

解きながら池田を知るクイズも↑

マップ、パンフレットなどのツールや情報発
信場所を配布設置。まちを知る起点としての謎
解きクイズも実施しました。魅力ある情報発信
と休憩拠点の重要性に気づかされました。



藍染め体験や出張カフェ、五月山動物園のモルモット観察会など、盛りだくさんの内容で来場者のみなさんをお迎え。植物園での植物ガイドツアーも楽しみました！

五月山の魅力を色とともに楽しむ

緑のセンター

五月山公園



非日常の静けさ・賑やかさを楽しむ

池田城跡公園

手入れの行き届いた日本庭園や芝生広場で、着物を着たり、お茶をいただいたり、撮影会を開催したり。いつもとはちょっと違う雰囲気を楽しみました。



駅前近辺のお店が有志でコラボ！特別メニューやサービスを各店で実施してくれました。イベント限定メニューや、初めて行くお店との出会いをお楽しみいただきました。

新しい出会いやコラボメニューにワクワク！

サカエマチ商店街

ステーションN



各場所のポテンシャルを生かした賑わい



池田駅前公園

さくら通り

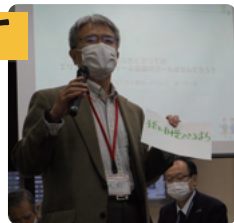
公園では「遊びのプロ」プレイリーダーによるどこでもプレイパーク等が開催。菁菁苑では有志によるマルシェが開催。青空の下でみなさんのびのびと過ごしました。



Individual

一つひとつの活動やビジョンが
重なりあって はじめて
いけだが活性化する

さまざまな思いが重なると、池田らしい未来地図ができあがる。知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれが活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切。



まちづくりは

官と民がそれぞれの役割で
動いていくことが大切

行政に任せきりではなく、市民や民間企業の思いやそれぞれの役割を認識して動く、良い結果になる。

Policy

最初から大きな未来を描くのではなく
まずは一人ひとりが「自分が楽しい」と思うことを
気軽にスモールスタートすることからはじめる

初めてのチャレンジには、失敗はつきもの。失敗することへの不安を考えるよりも、チャレンジを繰り返すことで、より良いものを作り出すPDCAサイクルをうまく回し続けることが大切。



駅まち空間を育てると
コミュニケーションが生まれる

看板や商品、植物、人、そこにある雰囲気組み合わせり、お互いの距離感を「ちょうどいい」感じられる共存空間があってこそ、コミュニケーションが発生してくる。

社会実験で実感

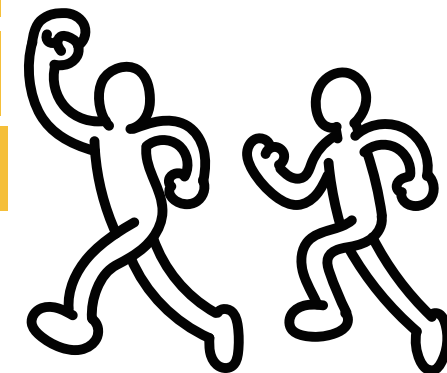
トライアンドエラーを
応援してくれる
風土と仕組みがあれば
嬉しい

さまざまな試行的なチャレンジを応援し、その中から生まれた新しい経験や知見を共有して、みんなが参考にしながらまた新たに行っていく、という好循環が生まれるといい。



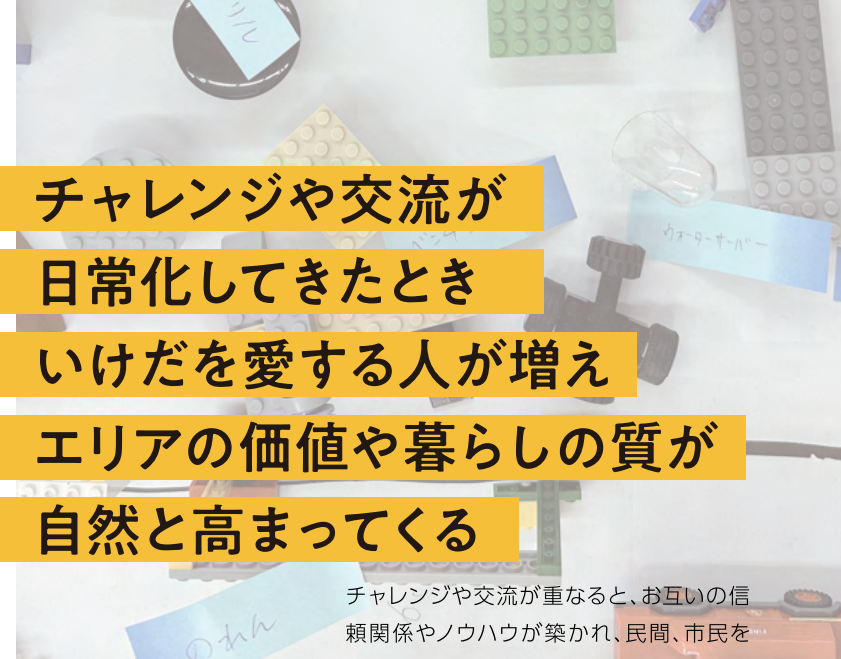
活動の中から
支援する側の
担い手が育つ

活動するなかで、駅まちづくりへの興味と責任感が醸成されていき、自然と担い手の裾野が広がり、地域の中から担い手が育成されていくようになりそう。



チャレンジや交流が
日常化してきたとき
いけだを愛する人が増え
エリアの価値や暮らしの質が
自然と高まってくる

チャレンジや交流が重なると、お互いの信頼関係やノウハウが築かれ、民間、市民を中心に据えた新たなまちづくりへの機運やシビックプライドが高まっていく。



したメンバーの声

Walkable

歩いて楽しいまちの可能性を
駅前を感じる

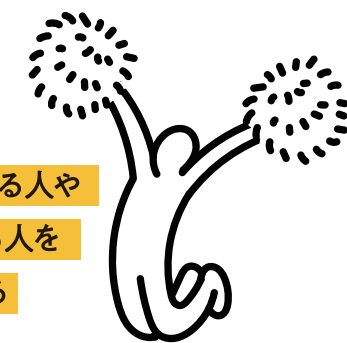
多くの人が社会実験に参加し、駅前でみたことがないくらい多くの人が来場した。駅前をウォーカブルで楽しむポテンシャルを感じた。



Support

まちづくりに初めて関わる人や
駅前のつながりを求める人を
伴奏・サポートしてくれる
組織が欲しい

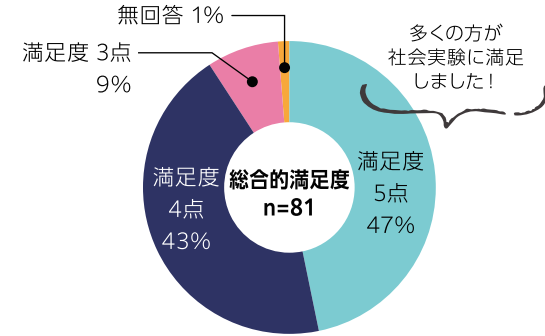
チャレンジを育ててくれたり、繋がりを紹介してくれるような「まちづくりガイド」のような人や組織が常にあると心強い。



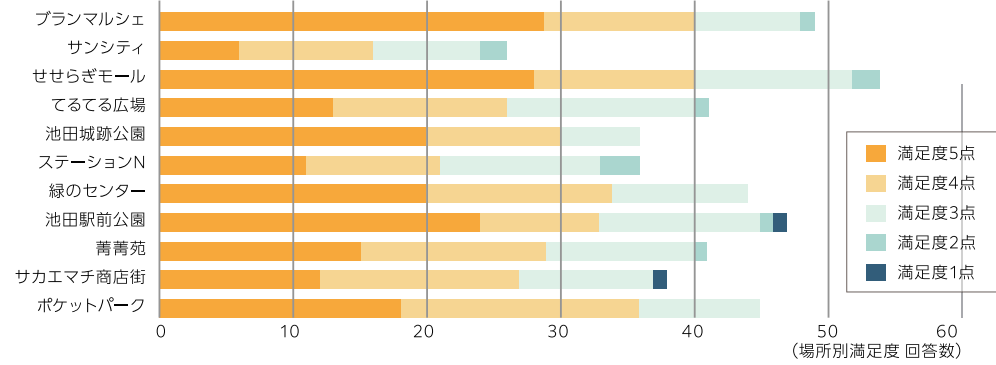
図と数字で見る社会実験

詳細説明

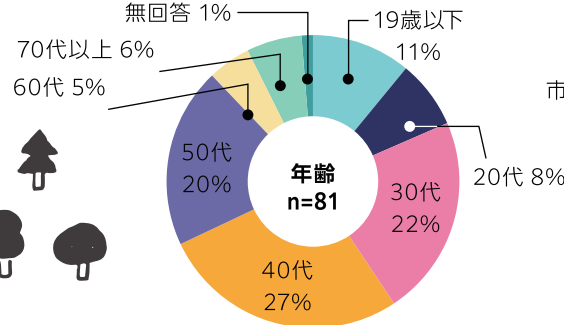
おさんぽマルシェの満足度



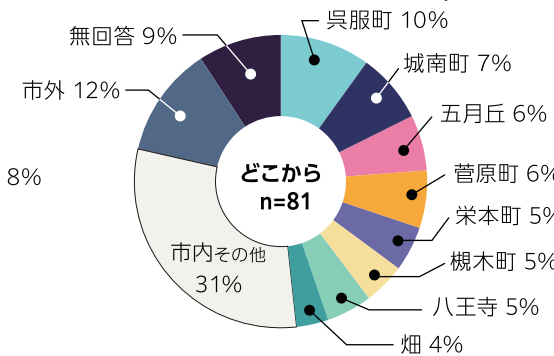
場所ごとの満足度



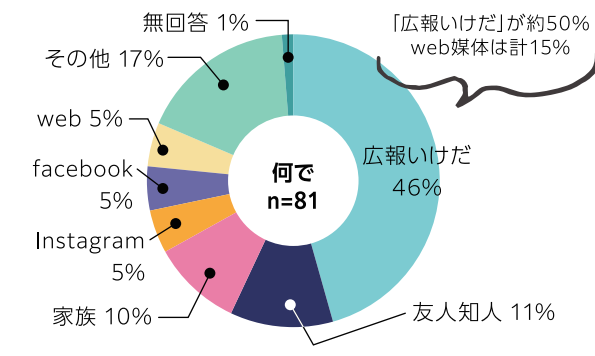
参加者の年齢



どこから来たか



何を見て知ったか



せせらぎモールにおける滞在状況調査結果

利用者属性と
アクティビティの多様化が
豊かな駅前を作っていく!

調査時間 ※1		10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
天候		曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	時々小雨
滞留行動	待ち合わせ	1	5				
	飲食(個人)		3		15	10	
	会話(飲食あり・複数)		1	16			
	会話(飲食なし・複数)			2			6
	会議・打合せ		2			6	
	仕事(PC作業・書類作成)						
	読書						
	喫煙	6					
	睡眠						
	眺める	15	15	12	13	8	11
	スマホを触る						
	子どもを遊ばせる	7	20	31	25		47
	ダンス・演奏等(個人)						
	ダンス・演奏等(複数)						
滞留人数	1人	15	22	7	5	1	10
	2人	6	7	14		11	11
	3人	4	6	9		12	8
	4人	2		3		3	5
	5人以上			2		1	
	合計	27	35	33	22	16	34
性別 ※2	男性	13	16	49		50	26
	女性	20	23	67		55	48
	子ども(~12歳)程度	22	16	61		45	28
	中高生(13~18歳)程度	2	33				
	大学生(19~22歳)程度		3				
	大人(23~60歳)程度	2	28	64		34	45
年齢 ※2	高齢者(61歳~)程度	3	5	5		5	3
	着席(一時的座具=イス・ベンチ等)	8	16	16		10	44
	着席(二時的座具=花壇の縁・腰壁等)	3	2	5		28	
	着席(座具以外=地面)		20	8			
	立ち	10	13	29		42	35
	寝そべる		14	18			
滞留人数計		146	271	420	59	384	328

※1 毎時1回の調査結果を示す ※2 調査員の黙示による判断 【調査方法】園田 聡「プレイスメイキング」、学芸出版社、2019 参照

社会実験(おさんぽマルシェ)来場者に、紙とwebでアンケート調査を依頼。総合的な満足度は満足(5点と4点の合計)と答えた方が約90%!市内から来た方が約80%でした。

社会実験で大きく空間のあり方を

変えたせせらぎモールにおいては、来街者の滞留行動を調査すると、子どもを遊ばせる、眺めるといった行動が多く、12:00~14:00には飲食(複数、個人)をする人も一定見受けられました。体勢としては、仮設の座具や人工芝の

利用があり、着座、立ち、寝そべる、のいずれもが確認でき、社会実験によってアクティビティの多様化がなされたことが分かりました。